

RU×S⇒SRU

地域を支え、地域を変えることができる大学へ

～高知大学は2024年に創立75周年を迎えます～



地域協働学部の活動(南国市福生実習班)

私が学長に就任した18(同30)年からは、他大学が進めるSuper Global Universityと差別化を図り、「Super Regional University」地域の大学の「二等賞」(以下、SRU)を理念として掲げさ

1周年行事が目押しという一方で、高知大学の歴史について教えてください。

本学は県内唯一の国立総合大学として、1949(昭和24)年に旧制高知高等学校・高知師範学校・高知青年師範学校を母体とし、文理、教育、農の3学部で発足しました。以来、常に地域とともに歩みを進め、今年には旧制高知高等学校が創立100周年、2023(令和5)年には高知医科大学との統合20周年、24(同6)年には高知大学の創立75周年と、高知師範学校の前身である陶治学舎の創立150周年を迎えます。そこで、同年11月1日までの2年半をアンバーサリ期間と位置付け、「高知大学創立75周年記念事業」を展開いたします。本日が、そのキックオフとなります。

「創立75周年に向けて、どのような大学像を目指していらっしゃいますか？」

04(平成16)年に国立大学法人となつて以来、「地域に根差した大学」となるべく、第一期：地方の大学から地域の大学、第二期：地域になくはない大学、第三期：地域と協働できる大学を目指して改革を行ってきました。

「地域に根差す大学」になるためには、今までの殻を破って生まれ変わることが必要でした。しっかりと地域と向き合う大学となるために、組織改革を行い、学系・部門制に移行しました。1人の先生が複数の学部の授業を受け持つことができるというものです。

15(平成27)年から8年かけて学部・大学院を改組しました。その起爆剤となつたのが、最初の手がけた地域協働学部の創設です。学生が地域をキャンパスとし、地域の方々も先生となり、学生と協働して地域の課題解決にあたることを学びの基本としています。

2024年に創立75周年を迎える高知大学。それに先駆けて、今年には旧制高知高等学校創立100周年、来年は高知大学・高知医科大学の統合20周年など、節目となる年が続きます。創立75周年に向けて、地域を支え、地域を変えることができる大学「Super Regional University」を目指してさまざまな取り組みを進める高知大学の櫻井克年学長に、その思いを伺いました。

(聞き手) 高知新聞社営業局長・伊藤能一



櫻井 克年 学長

「SRUへと進化を目指す、その背景と具体的な取り組みについて教えてください。」

本県は、少子高齢化や中山間地域の過疎化などの課題に、他県よりも15年ほど早く直面している「課題先進県」です。その地域課題に対して実践を積み上げることが本学の強みであり、その強みをさらに強化して、他県に類のない「SRU」になろうとしています。

次に、農学部を農林海洋科学部とし、山のてっぺんから海の底まですべて網羅する改組を行うとともに、人文学部を人文科学と社会科学を架橋する新たな人材の養成を目指す人文社会科学部へと改組しました。

また、本県は自然災害リスクが高いため、防災対策が不可欠です。理学部を理工学部に改組し、地球環境防災学を設置することにより、他大学にはない災害の本質からリスク管理までを学べる学部になりました。これらは本学の特徴的な学部です。



IoP共創センター(教育ハウス)

「これまで取り組んでこられた「改革」とはどのようなものでしょうか？」

本学が地方にある国立大学から「地域に根差す大学」になるためには、今までの殻を破って生まれ変わることが必要でした。しっかりと地域と向き合う大学となるために、組織改革を行い、学系・部門制に移行しました。1人の先生が複数の学部の授業を受け持つことができるというものです。

「地域に根差す大学」になるためには、今までの殻を破って生まれ変わることが必要でした。しっかりと地域と向き合う大学となるために、組織改革を行い、学系・部門制に移行しました。1人の先生が複数の学部の授業を受け持つことができるというものです。

「地域に根差す大学」になるためには、今までの殻を破って生まれ変わることが必要でした。しっかりと地域と向き合う大学となるために、組織改革を行い、学系・部門制に移行しました。1人の先生が複数の学部の授業を受け持つことができるというものです。

「地域に根差す大学」になるためには、今までの殻を破って生まれ変わることが必要でした。しっかりと地域と向き合う大学となるために、組織改革を行い、学系・部門制に移行しました。1人の先生が複数の学部の授業を受け持つことができるというものです。



海洋コア総合研究センター

「IoP事業は、高知の施設園芸を最先端の研究と技術開発によって飛躍的に発展させ、日本の農業を主導するプロジェクトです。15年間継続している土佐FBC事業ではすでに約650人の修了生を送り出し、彼らの活躍により累計83億円の経済波及効果を生み出しています。」

これらの他にも実にたくさんの地域連携プラットフォームが稼働しており、本学はそこでの重要なプレイヤーとして地域貢献を果たしてきています。

「IoP事業は、高知の施設園芸を最先端の研究と技術開発によって飛躍的に発展させ、日本の農業を主導するプロジェクトです。15年間継続している土佐FBC事業ではすでに約650人の修了生を送り出し、彼らの活躍により累計83億円の経済波及効果を生み出しています。」

「IoP事業は、高知の施設園芸を最先端の研究と技術開発によって飛躍的に発展させ、日本の農業を主導するプロジェクトです。15年間継続している土佐FBC事業ではすでに約650人の修了生を送り出し、彼らの活躍により累計83億円の経済波及効果を生み出しています。」

「IoP事業は、高知の施設園芸を最先端の研究と技術開発によって飛躍的に発展させ、日本の農業を主導するプロジェクトです。15年間継続している土佐FBC事業ではすでに約650人の修了生を送り出し、彼らの活躍により累計83億円の経済波及効果を生み出しています。」

「IoP事業は、高知の施設園芸を最先端の研究と技術開発によって飛躍的に発展させ、日本の農業を主導するプロジェクトです。15年間継続している土佐FBC事業ではすでに約650人の修了生を送り出し、彼らの活躍により累計83億円の経済波及効果を生み出しています。」

Going

「Going」は、周年を迎えたり、新たな展開に向けて節目を迎えた企業・団体を紹介する広告シリーズです。

企画・制作 高知新聞社営業局

高知大学創立75周年記念事業
Kickoff Event

5/14
10:30
12:00

●スタート宣言 ●高知大学の源流を訪ねて、VTR
●75周年記念ホームページ・ロゴマークお披露目
●先輩からのメッセージ(旧制高知高等学校卒業生)
●よさこい(旅順人) ●紙風船飛ばし

お問い合わせ | 高知大学総務部総務課
☎088-844-8116
✉ks04@kochi-u.ac.jp

オンライン同時配信
高知大学の関係者に限らず、どなたでもご覧いただけます。

創立75周年ロゴマーク

躍動する人の姿をSRU(Super Regional University)のアルファベットでデザインしています。またRU×S⇒SRUは、高知大学を目指すRU(地域の大学)からSRU(地域を支え、地域を変えることができる大学)への変革を表現しました。

高知大学さきかけ基金
高知大学創立75周年記念事業実施のためのご寄附をお願いします。

国立大学法人の統合・再編が全国的に検討される昨今、県民の皆さまに「高知大学がなくなったら困る」と言っていたことが私たちの心からの希望です。創立75周年に向けて、ぜひ一緒にSRUを目指していただきたいと考えています。県民の皆さま、よろしくお願ひ申し上げます。

出前公開講座(田野町)

県民が皆「高知大学生」構想

もう一度学び直せる
気軽に相談できる
仕事のヒントが得られる
なんだかおもしろそう

高知大学は、高知にかかわるあらゆる人にとって、大切な場所でありたい。これから大学生を目指す人も、卒業した人も、高知に住む人も、住んでいた人も、皆と一緒に、地域の力となって歩んでいきたいと願っています。

高知大学創立75周年記念事業 特設ページ
https://75th.kochi-u.ac.jp/